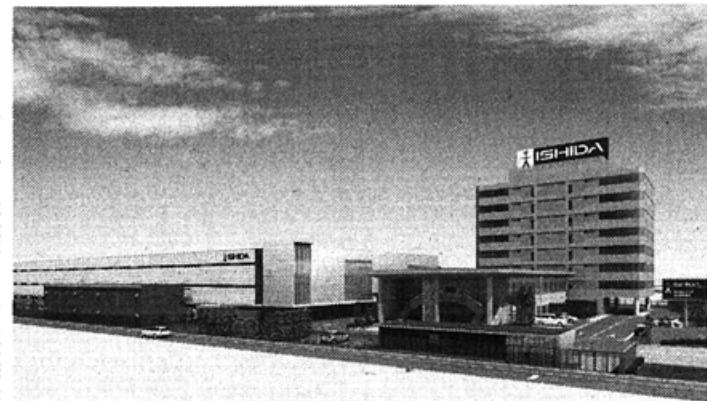


メカトロニクス京都 2015



イシダの滋賀事業所
(滋賀県栗東市)

KTCはメカニックやエンジニアラプロからの評価が高い。本社工場（京都府久御山町）内に「KTCものづくり技術館 匠工房」を開設した。匠工房は工具の修理やメンテナンスの機能を充実させた施設。熟練の専任技術者が常駐し、来訪者に工具の選定や使い方を助言する。

ある技術開発本部の新設で、製品設計や開発期間の短縮、より顧客要望に対応した製品開発への反映を実現する開発体制を確立する一方で、生産手法の工夫で生産体制を強化、高水準の需要に対応している。

体制強化の動き着々 中堅・中小の京都

タップに蓄積されている。NKEは現場や生産ス

ラインもフレキシブル化され、生産プロセスに品質管理機能を持たせている。製品と品質を同じプロセスで作り込むことで、工場を集約し、より生産効率を高める計画の検討にも着手している。

ベテランらが持つ
経験やそれに裏打ちされる
技術などの属人的な
ナレッジをオーブンに
し、誰もが活用できる
環境を整備して生産の
現場力を引き上げよう
といふもの

一方、海外では生産態勢の強化が進んでおり、中でも社の広州工場は生産機能を有する。この工場では、機械の運営活動を通じて、現地で連携、コングロマリット化を図る。現地で車両や機器などを販売する。また、自動車や機器などの販売も行われている。

外拠点でも生産化に動き始め、全国の販売子会社を附加、攻めを展開する計画を実現する。協力工場と機械など顧客へティーな供給体制を強化しきる。

出版業界では国内外でデジタル印刷によるオンラインデマンド化が進展しており、多品種少量の製本を得意としてきた同社システムへのニーズが急速に高まっている。工場やショールームの拡充で、さらなる競争力の強化を進め、ソリューション展開を加速していく。

（京都府長岡京市出身）のドリブル。プロスポーツ選手にはそれぞれ「武器」がある。京都のメカトロニクス企業も同じ。設備投資、開発力強化…。自らの攻めの一手で、モノづくりのトーナメントを勝ち抜く覚悟だ。大手企業に負けじと、京都の中堅・中小企業の体制強化を狙う動きが着々と進んでいる。

インダは今年9月をめどに主要拠点となる滋賀事業所（滋賀県栗東市）を増強する。投資額は約20億円。同社は計量・包装装置や、その装置を用いる食品加工ラインに連動するX線異物検出装置などを手がけるが、「食の安全・安心」が従来より高いレベルで求められる現在、計量・包装から異物検出までワンストップで食品加工ラインを提供できる強みがある。

石田隆英社長が「今は力を入れている」と方表示するが大きな事業領域だが、中でも食の安全に直結する検査は、特に力を入れるよう、新工場表に選出されたガンバ大阪、宇佐美貴史選手（京都府長岡京市出身）のドリブル。プロスポーツ選手にはそれぞれ「武器」がある。京都のメカトロニクス企業も同じ。設備投資、開発力強化…。自らの攻めの一手で、モノづくりのトーナメントを勝ち抜く覚悟だ。大手企業に負けじと、京都の中堅・中小企業の体制強化を狙う動きが着々と進んでいる。

インダは今年9月をめどに主要拠点となる滋賀事業所（滋賀県栗東市）を増強する。投資額は約20億円。同社は計量・包装装置や、その装置を用いる食品加工ラインに連動するX線異物検出装置などを手がけるが、「食の安全・安心」が従来より高いレベルで求められる現在、計量・包装から異物検出までワンストップで食品加工ラインを提供できる強みがある。

石田隆英社長が「今は力を入れている」と方表示するが大きな事業領域だが、中でも食の安全に直結する検査は、特に力を入れるよう、新工場

の最高級工具「ネaproス」などを展示した「KTCものづくり技術館」もあり、工具の情報を発信する。宇城邦英社長は「本物の工具」の提供を追求してきたが、こだわりに良さをプラスしていきたい」と意気込む。

ユーシン精機は2016年秋をめどに新本社工場を新設する。事務棟が7階建て、工場棟は4階建てで、延べ床面積は計約2万600平方㍍。8月着工し、16年秋の完成計画で17年の本格稼働を

なるプラスチック製品の射出成形機用取り出しロボットを手がける。自動車や機械部品向けの工場からの需要増に対応する。事務棟では営業や開発、管理などの部門をワントロアに集約する。

阪村機械製作所も主力

主要顧客の自動車部品メーカーからの引き合い増が続く。本社工場（京都府久御山町）内には府下最大級の100㌧の大型格稼働に乗り出した。中嶋歯車工業所は本社

約350平方尺の1階部分を既存工場とつなげて製造場所を増やした。強みの多品種少量対応が可能な歯車を短納期で仕上げる。歯車は減速機などを扱う大手工作機械メーカーの木工機械工場を取得。

岸紙工は本社工場（京都府宇治田原町）で、新たに印刷自動製函機などを備えた。コンビニ向けの受注が増え、量産対応の段ボールを作る方針。

の複合旗艦を導入する。これまで投資を手控えてきたものの、大手出版社向けの大型製本システムの需要が拡大していることから、生産性向上に向けた設備強化に踏み切った。

またびわ工場とドイツの販売拠点のショールームをそれぞれ拡大し、出版社向けなどに大型システムの実機を展示。ユーラーの「フネスエドアレ

で日本人初の4大大会制覇を狙う錦織圭選手の代名詞「エアー・ケイ」。サッカー日本代表に選出されたガンバ大阪、宇佐美貴史選手（京都府長岡市出身）のドリブル。プロスピーツ選手にはそれぞれ武器がある。京都市のメカトロニクス企業も同じ。設備投資、開発力強化…。自らの攻めの一手で、モノづくりのトーナメントを勝ち抜く覚悟だ。大企業に負けじと、京都の中堅・中小企業の体制強化を狙う動きが着々と進んでいる。

A black and white portrait of Masayuki Nakamura, President of NKE. He is a middle-aged man with dark hair, wearing glasses, a light-colored shirt, and a striped tie. He is looking slightly to his left with a neutral expression.

と取引先から高水準の受注が寄せられている。搬送機器など増産対応や合理化など前向きな内容で、しばらくは好況が続くと期待できる。顧客に立った仕様や納期などきめ細かな

か高まってきたが、より有在感を高めたい。コンベヤーベルトやベアリング、フライス加工品などの展示で我々のものづくり力を紹介、新規顧客開拓につなげる。中国ではエーアー機器などを現地生産、機動性を高める

課題解決で需要開拓、戦略マシンナリ～